

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600551		
法人名	株式会社 しらかば		
事業所名	グループホーム たんぽぽ (ゆめ)		
所在地	帯広市東5条南14丁目1番地1		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念を念頭におき、職員各自が理念に少しでも近づける様、利用者様の生活を支援しています。 ・秋には利用者様と農家に行き、大根を掘り漬物を漬けています
 ・自由献立を実施し季節に合わせたメニューや、利用者様の要望なども含めふだんと違う雰囲気での 食事を提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouCd=0174600551-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年11月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を表示し毎日の朝礼のときには理念を念頭に、声に出し実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事・清掃には利用者の身体状況の悪化もあるため参加出来る利用者は少ないですが職員のみがお手伝いに参加する時もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の、身体状況・認知症の進行の為に多くの参加は出来ていないのが現状です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、利用者家族・地域包括・町内会役員・ボランティアの方に参加して頂き状況報告し、意見を頂きサービスの参考にさせて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会以外の関わりはあまりなく、市の担当者に実情を伝えたり利用者個人の相談をし協力を仰いでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は社内外の身体拘束における委員会の勉強会に参加し、拘束廃止について理解し事務所に身体拘束廃止宣言を表示し、玄関のカギを掛けず時にはチャイムを使用し常に分かる様に取り組んで居ます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修・社外研修に参加し職員会議やミーティング時に情報を共有し日々の利用者の対応に注意を払い虐待の防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されるまでの利用者の方は居ませんが、社内・社外研修でも勉強会には参加し、いつでも相談支援出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約には直接関わる機会はないが重要事項説明書をいつでも閲覧できるようにしており、ある程度説明が出来るようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご家族の行事参加の時や・苦情委員会でのアンケート調査をしており家族の意見要望が反映させられるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング時意見を聞く機会を設けて意見を出しやすくしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、給与水準や資格手当の整備、勤務表賞が実施されており、各委員会で役割を持つことにより向上心、目標を持って働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ社内研修、社外研修、中途採用者向けの介護技術研修を開催し知識向上・技術向上のため、努めています。費用のかかる研修についても会社負担を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や勉強会に参加し他グループホーム職員との交流が出来るようはかられています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人からの話を聞く機会もうけて、入居後もコミュニケーションの時間を設け職員間で情報を共有し、信頼関係を気付けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始の頃は家族との話し合い、思い要望とうを伺い、面会時に本人の状態報告し家族との信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の精神状況・身体状況、家族の要望を考慮し必要としている支援を見極め支援していますが現在は、他のサービスを利用されている方はいらっしゃいません		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位基本を念頭に、コミュニケーションを多くとり家事支援(料理の味付け、盛り付け・掃除など)職員と一緒に行動により、より良い関係を築いて行ける様努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にも行事に参加して頂ける機会を作り、季節の変わり目の衣替えや面会の時に本人の日々の様子・相談し利用者本人を共に支えて行ける関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望がある時、なじみのお店での買い物や外出など家族と連携をとり支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行もあり、利用者同士の意思の疎通が難しくなっている為、職員が間に入り洗濯物干しやたみ・食器拭きなど一人に偏らない様支援しています。レクレーションをする事によりコミュニケーションが取りやすくなるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動しても、ご本人の相談など、気兼ねなく連絡やいつでも、来所できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り一人ひとりの希望を尊重し職員同士で検討し実施出来るよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の生活歴、サービス計画書など、職員がいつでも閲覧できる様保管されており、本人・家族との話から習慣、行動など暮らしの把握に努め、職員間で情報を共有し支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に一日の出来事、本人の訴えを記入、健康チェック表に時系列に記録し利用者の体調が一目でわかる様にすることにより、職員間で共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化に、毎月の職員会議、ミーティングを行いそれ以外にも随時話し合いを設けながら、現状に即した介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・変化ある時は生活記録に記入し、毎日の申し送りなどで伝え職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長年生活されている利用者様も多く、ADLの低下がみられるため以前の活動的な支援が出来ておらず職員同士話し合いながら利用者の叶えられるようつとめています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事参加など地域住民との交流を行えるにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向、希望にそった医療機関の受診を頂いています。協力病院以外は基本的に納得のうえ協力病院への変更により、ホーム対応しています。協力病院以外は基本的にはご家族対応ですが、対応が出来ない時は職員対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況に注意配慮し週二回看護師が来ており、その都度報告相談し指示を仰ぎ、適切な対応や看護が受けられるよう支援しています。勤務外でも連絡を取れる体制にあり、相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんの入院時については安心して治療できる要介護添書を提供し、入院中の情報はご家族を通しご本人の状態を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化した際、家族の意向確認の話し合いをしておりホームでの出来る事出来ない事もあるため特養・老健への申し込みや、主治医と家族の話し合いにより訪問看護利用し緊急時の受け入れ先を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が発生した場合のマニュアルも作成されており、緊急時の社内研修、の勉強会を行っており、職員一人一人が救命講習を受けおりそれに基づき対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練(夜間想定・地震災害)を実施し職員全員が慌てることなく利用者を避難出来るよう行っているおり、近隣住宅の駐車場や町内会の他施設との連携を図り一時避難場所の協力体制が整っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴介助の声掛けに、ひとり一人の人格を尊重しプライバシーを損ねない対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、利用者本人の希望や訴え尊重し自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援する事を目標には上げているが、身体機能の重度化などもあり職員ペースの流れになってしまいがちの為利用者の要望が叶えられる様努めます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度、理美容の出張サービスを利用しています、家族対応で美容室に行かれています方も居ます、衣服の汚にはこまめに更衣ように努めています。外出・行事などTPOに合せた支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況の進行もあり出来る事は限られますが、味付け盛り付け、食器片づけなど協力的に行って下さいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼状態も個人差があり、誤嚥予防の為にも刻み食やトロミをつけ、個々に合わせた食事形態にしています。健康チェック表で水分摂取量が一目で解るようになっており日々の支援につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアを、声掛けで出来る方、介助、見守りにより支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況の悪化に伴い時間を見て声掛けトイレ誘導を行っていますが、羞恥心のため拒否される事もあり、尿意を訴えられた際に誘導では間に合わない事が多いです。自立されている方でも失敗が多く見守りが必要な状態です。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を加えたり、個人的に毎食後ヨーグルトを食べたり排泄の時に腹部マッサージを行うなど、一人ひとりの排泄パターンに合わせて取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴の取り組みはしていますが、声掛け促しをして入浴を嫌がる方もおり体調に合わせた支援を行っています。行事や外出などで入浴出来ない方には前日に入ってもらくなど支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯周りの生活音がある為か安心してソファーで傾眠がちの方も多く。個々に合わせた日中帯の活動を取り組んでゆくよう支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新入職員には、利用者一人ひとり何の薬を飲んでいるのか理解出来ない為、服薬に関しての個人ファイルを見るよう指示しています。内服薬の変更ある時そのつど職員が把握できる様連絡、申送りに努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症症状の悪化と行動多動の利用者が多い為か関わりの時間が少なくなっている為、レクやゆっくりとお話しの傾聴が出来る時間気分転換ができる用に努めて行きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常での散歩や外出など、身体介助の方が多く外出の機会が少ないのが現実の為、入浴日以外に一人ひとり個別で散歩、買い物など時間を作り短時間でも外へ出る事を支援します又家族の協力の基、外出・外泊などされている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望などある時には時間を作り職員と一緒に行くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が補助をし電話を掛けれる様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気が良い時など西日が強い為、夏場は室温が高くなりやすく光の調節や冷房を入れたり温度に配慮しています。冬場は乾燥しやすい為加湿器や霧吹きなどで湿度調整に配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに名前を付配置に配慮し、長椅子で気軽に昼寝をしても良いように余裕をもった配置にしています。各居室入り口の所にベンチがあり入居者同士お話できるような作りになっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のタンスなど自分の物を使用している方、家族の写真や飾り、手紙など飾られています。身体上の問題のある方も居るため、転倒予防の為に普段はテーブルを置かず使用時に出すように配慮している方も居ます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りやエレベータを使う事により、安全に移動でき統一した見守りをする事で自立した生活が送れるよう支援しています		